

星屑

1996. 10

No. 259



「土星」 佐伯氏撮影

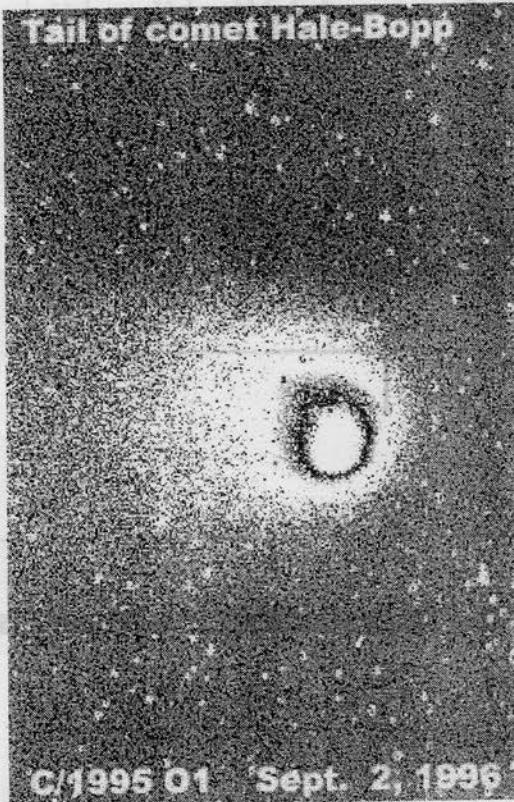
Or6mm 41Cm反射 フジ100

熊本県民天文台

CCD REPORT

COMET PAGE 1996-09

Porco Nisse



今年の夏は行楽には差し支えのない良い天気の夏といえましたが、星を観測するには最悪の夏でした。昼間はカンカン照りに晴れるのに夕方から湧き出した雲が空を覆い、夜明けとともに晴れてくるという最悪のパターンでしたから。夏休みにこんなに観測ができそうでできなかつたことは初めてです。

彗星界はどうかというと、地上のこんな嘆きをよそに役者がそろってにぎやかな舞台となっていました。では、さっそく彗星たちの姿にせまってみましょう。

C/1995 O1 (Hale-Bopp)

はっきり言って期待された増光がこの期間には認められませんでした。5.5-6.0等という光度で推移していました。しかし、彗星の活動は活発で6本のジェットと東にのびる1度以上の尾が認められます。

右の画像は、13cmF4.8で撮影した像から太い尾を強調してみたものです。反転して黒くなつた中の白い部分が41cmの直焦点で写る写野です。どうです、なかなか立派な姿でしょう。

次の3枚の画像は各近傍のジェットをとらえたものです。ジェットの方向にあまり変化がないのが不思議

C/1995 O1 (Hale-Bopp)



Sept. 2, 1996
41cm F6L, 60sec.

です。自転の影響がないはずはないと思うのですがねえ。いずれにしろ楽しみな星ではあります。

C/1996 E1 (NEAT)
Sept. 2, 1996

41cm F6L, 120sec.

C/1996 N1 (Brewington)
41cm F5L 120sec. Aug. 22, 1996

1996PW
Aug. 22, 1996
41cm F6L, 120sec.

C/1996 Q1 (Tabur) Aug. 22, 1996

C/1996E1 (NEAT)

このおかしな名前は個人の名前ではありません。地球に接近する天体を搜索するチームの名前です。この名前から発見事情もわかるうといふものです。

発見は3月だったのですが、悪天候でなかなかみる機会がなくて、これが初観測になります。7月27日に近日点を通過してこれ以上明るくなりませんが、9月頃は赤緯が+80度に達し周極星になります。しかし、KCAOから見る北は熊本市の公害のまっただ中にあたりますからよほど良い透明度の日でないと観測は困難です。

C/1996 N1 (Brewington)

アメリカの彗星搜索者が7月4日に夕空で発見した星です。通知はすぐ届いたのですが、天候が悪くて観測できたのは7月13になりました。夕空で9等級でした。近日点通過は8月3日で8月には7-8等級で観測されました。

この星は、Brewingtonにとって5個目の発見となります。この人は、彗星を見たくて2,000mの高地に移住してしまったという熱心な搜索者です。

1996PW

名前からもわかるように、この星は彗星ではなく、小惑星です。しかも近日点距離は2.5AUもある星です。じゃあ、なぜここに紹介されるのか?と思うでしょう。実はこの星は離心率が0.98と放物線に近い軌道なのです。近日点距離の遠い小惑星はいくつか見つかっていますが、こんな放物線に近い軌道の小惑星は初めての発見なのです。この星の正体は何でしょうか?ひからびてしまった彗星か、はたまた・・・。

C/1996 Q1 (Tabur)

オーストラリアのV.Taburが8月19日に20cm反射で発見した星です。この星も悪天候のため初観測は22日になりました。近日点通過は11月3日です。10月には地球に0.4AUまで接近し5-6等になると予想されます。

この星の軌道がC/1988 A1 (Liller)の軌道と良く似ていることが指摘され、およそ3千年の周期の前の接近時に分裂したのではないかともいわれています。今後の観測が待たれます。

このほかの話題です。57P/du Toit-Neujmin-Delporteが予報より5等級ほど明るく観測されました。核が分裂したようです。また、C/1996 N2 (Elst-Pizarro)が発見されました。まだ悪天候のため観測できません。この星は、1996PWとは逆にメインベルトに属する小惑星軌道の星に彗星の尾があるというもので、小惑星1979OW7との同定が指摘されています。



コスモイル羽咋感想記

高田祐一

みなさん、もう忘れてしまったことでしょうが、このシリーズまだ続いています。1年ぶりにやっと2回目です。気長に続けますので忘れないでください。

今回は熊本の方からは、ちょっとなじみが薄い石川県は能登半島の羽咋（はくい）市に今年7月オープンした総合施設「コスモイル羽咋」の感想記です。

能登半島をぐるりと半周まわった。自転車でまわ

った。キャンプを続けながら4日かかった。顔も腕も足も真っ黒になった。3日で3kgやせた。4日目はさすがにゆっくり休もうと、人気のない海水浴場で軽く泳いだ後、砂浜で昼寝モードに入ろうとしていた。まだ午前10時になっていない頃、から、である。

海水浴所では、誰も聞いていないのに地方局のラジオを流していた。アナウンサがどこかの施設に勤めている若い女性にインタビューを始めていた。その時、ピクピクピクっと自分のアンテナが警報を発して、注意深く聞けよ、聞けよと叫んでくれた。なに、「コスモイル羽咋」、「デジスター」、「UFO」だって！？ 羽咋って、出発し始めたところじゃないか。たしかUFOで地域おこしをやっているところではなかったけ？ デジスターがみれるの？

旅の最後の日の予定はこれで決まってしまった。自転車をたたんで列車にのり、羽咋市へと向かった。



★ママチャリにのって

羽咋駅についたのは午後3時半をすぎていました。自転車を詰めたバッグと荷物を駅前のお店にあずけ、その人が親切にも貸してくれたママチャリに乗って出かけました。やがて、UFOのようなお椀を伏せた巨大な建物と、その横によきによきとそびえ立つマーキュリロケットが見えてきました。

★残念、デジスターがみれなかつた

やはり、見学の目的はなんといってもデジスター2にありました。ところで、この日、コスモシアターで上映されていたプログラムは次の2つで、

- (1) 「コズミック・パーセプションズ」
- (2) 「WE FOUND THE EARTH 我々は地球を発見した」

(1)はデジスター2の機能をフルに使ったものですが、残念ながらこれの上映は終わっていて、私は(2)しか観れませんでした。こちらはビデオプロジェクターの上映番組で、デジスターの機能はほとんど使っていません。デジスター観覧はまた次の機会にゆづることになりました。

デジスターとは

エバンス&ザーランド社製のCGプラネタリウム。ワークステーションで描かせたCGを魚眼レンズを用いドームに投影する。従来のプラネタリウムと違い、天体を自由に動かして投影できる。つまり宇宙空間を飛翔するような光景もお手の物。ただし今のところ白黒で、面積をもった天体はワイヤーフレームで表現する。アメリカでは何台か稼働している。日本では、けんじワールド（岩手県）にデジスター1が、コスモイル羽咋でそれの改良型のデジスター2が稼働している。

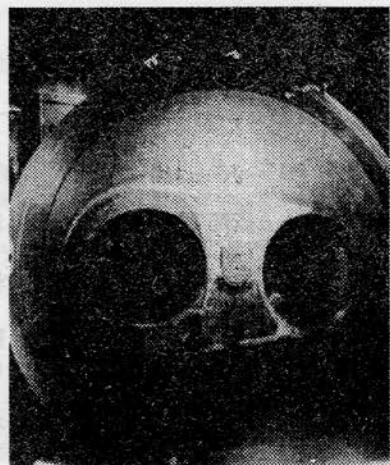
だそうです。

★展示室は、米ソ(旧)の機材で充実

宇宙科学展示室は￥800（子供￥400）で入れます。ここには、米ソの宇宙開発の機材がたくさん展示してありました。入ってまず目につくのが、マーキュリー宇宙カプセルで、窮屈なコックピットに体を埋めている宇宙飛行士（人形）が、痛ましくさえ感じられました。

次に展示してあるのが、ヴォストーク帰還用宇宙カプセルで、これは実際に使用した本物で、大気圏との再突入のときの焼けた後とか、地上着陸の際の傷跡があつて、すごい迫力がありました。

他に通信衛星やアポロ司令船、月着陸船、ボイジャー探査機など実際の部品、素材で作られたものがずらりと並べられていました。それぞれにはビデオ（日本語、英語）で説明がありますが、それでもわからないところは解説員の人に尋ねると丁寧に教えてもらえます。好きな人にとっては、見応えたっぷりのところでしょう。



ヴォストーク帰還用宇宙カプセル

★UFO←これは科学か？

宇宙科学展示室の一角にはUFOのブースがあって、ビデオで様々な科学者のUFOについての賛否両論の意見を拝聴できます。ところで、ある極端なアメリカの科学者は「宇宙人は人工授精して子供を作ったり、宇宙人×人類の掛け合わせをつくろうとしている。」なんてかなりショッキングな話をしていたのですが、これだけを聞いた人の中には、頭ごなしに信じてしまう人もでてくるのではと心配になりました。他の展示物が良くできているだけに、誤った知識（少なくとも科学的に立証されていない）を植え付けてしまいやそうです。

と思うと同時に、いやいや、UFOという現象をキチント「科学的に」調べる事自体は変なことではないのでは？また、天文普及という観点から考えた場合、UFOや宇宙人から天体に興味を持つような子供が出ないとは言えないんではないかいな？と考えてしまいました。また、雨の後のタケノコのように全国に林立している、プラネタリウム・科学館のなかには一つぐらいUFOという特色をだしたところもあっていいのかもしれません。

☆おまけ 地球外生物はいたのか！？

私がコスモアイル羽咋を訪れたちょうどこの日、NASAは例の「火星の生物の痕跡」を発表しました。UFOの町をアピールしているんですから、どうですか、例の隕石の一部をもらってきて（買い取って）電子顕微鏡一式といっしょに展示するというのは？火星人の先祖の痕跡を観れるなら、またぜひもう一度訪れてみたいですね。

第2回終わり

コスモアイル羽咋
【所在地】〒925 石川県羽咋市鶴多町免田25
【電話番号】TEL 0767-22-9888 FAX 0767-22-1947
【交通機関】JR羽咋駅下車徒歩10分程度
【休館日】火曜日・第3水曜日 (祝日に当たるときは、その直後の休日でない日)
【開館時間】AM10:00-PM10:00
【料金】宇宙科学展示室 ￥800／コスモシアター￥700 (子供半額)
【館の設備】1F ロビー 図書館 研修室など 2F 宇宙科学展示室 3F コスモシアター（プラネタリウム）
【ドームの種類】E&S社 デジスター2、97座席



JAE00724@niftyserve.or.jp (☆)

『シリウスよりも輝いて』

第8話 星の名前

高橋 美帆

沢木は焦った。そこにはめぐみが立っている。首にはまだ、安部の腕がまわっている。めぐみは何も言わない。

沢木はそっと安部の手をほどき、落ち着いたふりをして口を開いた。

「ああ、帽子？ これ？」

パソコンの前に置いてあったクロッシュを取り、めぐみの前に出る。彼女は全く普通と変わらず、笑顔で礼を言って階段を下りていった。

帽子の重みを失った手が震えている。夜の冷気が体に入った瞬間に熱い息に変わる。

「何も見てないわよ。」安部が後ろから言った。

「逆光よ。目も慣れてない。」

沢木は安部のことを思い出し、我にかえった。しかし、何を言えばいいのかわからない。

「白石さんのことが好き？」

「ええ」とは口に出せなかった。

「いいわ、答えなくて。でも、わたしは沢木君のことが好きだったのよ。ちょっとだけね。こんなことしちゃってごめんなさい。ばかね。」

安部はそれだけ言うと、階段を下りていった。

なんてことだろう。安部さんが俺を好きだって？

沢木はベッドに横たわって、今日のできごとを思っていた。

安部さんは素敵な人だ。めぐみは岩永のことが気になるらしい。

しかし、困難の中で、めぐみへの気持ちは一層確かなもののように思われた。目を閉じるとめぐみの笑顔が浮かぶ。



めぐみが何か言っている。「…沢木君、シリウスが見えてきたわ。」

目をやると、そこにはこの季節に見えるはずのないシリウスが、眩しく輝き何かを訴えている。

「沢木君、あの星何ていうか知ってる？」

その声はめぐみのものではなかったので、おどろいて自分の隣を見ると、見覚えのある女の子がいた。彼女は、そう、サッカー部のマネージャーだった。

沢木と彼女は、重いポットを抱えていた。それは中学1年生の体にはあまりにも大きく、何度も休みながら、水道からグランドまで運ばねばならなかった。紫色の夕闇が前方からやって来る中で、星が一つだけ、帳に針で穴を開けたように光っていた。肌寒く寂しげな宵だが、沢木の心は温かい。彼女といふと、いつもそんな心でいた。思えば、あれは初恋だったのだろう。

輝くその星はまさしくシリウスだったが、沢木はそのころシリウスの名を知らなかった。彼女もまた知らなかった。二人にとってシリウスは、ちょうど恋のように美しく、曖昧なものだった。

めぐみは、出会ったときにシリウスが好きだと言った。沢木も、その頃は大方の星の名前は知っていた。それは、二人が、大人として出会ってしまったということなのかもしれない。お互いが、色々な経験をして、さまざまな恋を知るときに出会ってしまったのではないか。

沢木は、多くの人々の思いの流れに巻き込まれてゆく自分の姿を思った。もう初恋の時のように、曖昧な気持ちのまままで、温かい心のまままでいられる環境ではないのかもしれない。



沢木は朝に弱い。

夢から覚めて、時計を見ると、もう11時をまわっていたが、まだボーッとしている。外で大合唱している蝶の声が、頭の中でさらにこだまするようだ。

トイレにいって、歯をみがき、顔を洗って髭を剃った。テレビをつけて食パンを口にし、それから、今日は何日だとか、何をすべきかとかいったことをやっと思い出す。早いもので、もう季節は夏である。大学も夏休みに入った。今日は何もする事がない。

岩永は大丈夫だったんだろうか。

沢木はふと思いついた。岩永は、昨日天文台の階段から落ちて気絶したのだ。

沢木は電話を取り、岩永の家の番号を押した。

4回コールした後、岩永が受話器を取った。

「俺、沢木だけど。おまえ大丈夫だった？」

「何が。あー、昨日のあれか。大丈夫だいじょうぶ。それより誰が家まで運んでくれたと？」

沢木ははっとした。もしかしてめぐみが連れて帰ったのかもしれない。実際のところは知らない。あの時はめぐみの発言と安部の行動のWショックで混乱していたのだ。

「えっと、俺は知らないんだけど。なんなら河田さんあたりに聞いてみようか？」

「お前が電話してくれんの？ じゃー頼むわ。俺でっきりお前が運んでくれたのかと思ってたんだけどな。」

「…悪いな。いろいろあってさ。」

「ふーん。そう言やおまえ、なんか変だったよな。」

岩永は、沢木が岩永にめぐみを送りに行かせた時のことと言っているのだ。「それは、めぐみさんが岩永を好きだと言ったからだよ」なんて言えるわけがない。

「その話はいづれする。また後で電話するから。」

沢木はとりあえず電話を切った。『その話』を逃れたかったのと、昨夜の真相、つまり、誰が岩永を送っていったのかを早く知りたかったからだ。

すぐに河田の家に電話してみた。しかし応えたのは留守電だった。

沢木は悩んだ。昨日天文台にいたメンバーで電話番号を知っているのは、あとは安部だけだ。かけてみたところで、何から話せばいいのか。

ふと、さっきの夢を思い出した。大人の自分、流されてゆく自分。沢木は、きちんとけじめをつけようと思った。

トゥルルルル。トゥルルルル。ガチャ。「はい、安部です。」

かなりの緊張を抱きつつ、沢木は話し始める。

「もしもし、沢木です。」

「あ…、沢木君…。」

「あの、ちょっとお聞きしたいんですけど、昨日岩永を誰が送ってくれたのか知りませんか。」

「ああ、わたしが送ったわ。…白石さんだと思った？」

「…はい。ぼくは彼女が好きなんです。」

「ずいぶん素直なのね。」

「安部さんの気持ちはうれしかった。安部さんぐらゐ素敵な人は、僕なんかにはもったいないけど、僕はどうしても白石さんが好きなんです。たとえ気持ちが伝わらなくともいいんです。」

「そう…。昨日はもののはずみだったよ。もう忘れよう。そこまではっきり言うなんて、男だね。」

「いきなり失礼な電話ですみませんでした。これからも、後輩としてかわいがってください。失礼します。」

沢木は受話器をおいて、やっと息ができたような気がした。はっきり言えた。岩永を送ったのは安部だった。今しゃべったことを思い出すと頬が赤くなるような気がしたが、これで昨日のことにはっきりけじめがついたと思うとほっとした。身の周りがすっきりし、自分の気持ちははっきりとした。

今日から、昨日までのことをゼロにしてやりなおそう。
嵐のような一夜を越え、ちょっと大人になった沢木の決心だった。

☆おことわり☆

この物語はフィクションです。登場人物は一部を除いて空想の存在であり、名前等は実在の人物とは関係ありません。

なお、物語中の『安部』、または『安部さん』とは設定では熊本大学の修士過程2年生（25歳）という設定です。

第9回九州スターフェスタ 「星の降る夜 IN 清和」'96

八坂 三夫

今年も家族で行つてきましたスターフェスタ、とにかく楽しかったです。

それで、今年のフェスタの事をお伝えしたくペンを取つた次第です

先ずは、自己紹介を致します。歳は43才、妻ひとり、子供3人、愛機は去年影山氏から「レトロ」ですねと言われた高橋製TS式65屈折赤道儀(まだ使えます)で、スターフェスタ以外にはほとんど天文活動?はしていない不眞面目会員であります。熊本県民天文台との関わりは、県民天文台の前身の熊本天文研究会からになります。

中学3年の時、当時あこがれであったニコンの8センチ屈折赤道儀が、今はなき大洋デパートのめがね売り場に展示してありよく見に行つていました。

そしてある日、その売り場で「ちらし」を見て、当時辛島町にあった博物館で熊本天文研究会の発足会がある事を知り、当日出かけていくと、そこには宮本さん、永井さん、古庄さん等々がおられ、50~60名位で発足会が行われたと記憶しています。

それから、高校時代は熊大薬学部屋上の観測会、そして宮本さん宅、大学時代は観測会、宮本さん宅の会合、そして、古庄さん、小林Jさん、松尾、木村両君との別の活動として夜のネオン街の探索を楽しんだものでした。

ただ、その当時は若さの勢いか、人との関わりについて考えるとか自分自身を見つめ直すとかする余裕がなかったと思いますが、ちょっと余計な事を書きすぎましたかな。

さて、話をスターフェスタに戻すと、今年は受け付けが天文台横から一般参加者用駐車場のところに移りました。内容は、例年のごとくオープニングセレモニーとして、県警音楽隊(人にあっては見物かも)、縁仙太鼓、ただO-157の影響か?楽しみにしていた餅つき大会がなかったのは残念がありました。そして、開会式として、清和村長 清和高原天文台名誉会長 挨拶、県外天文スタッフ代表挨拶(長崎、佐賀、福岡、大分)があり、天文クイズ&ビンゴゲームと雰囲気を盛り上げていき(残念ながら我が家はぜんぜん当たらず)、宮沢賢治の「双子の星」の矢部絹子さんの落ち着きのある美声での語りとミニコンサート、そして、百武彗星発見者の百武、水俣の西川、清和高原天文台名誉会長の宮本、3氏によるトークショーとつづき、3氏それぞれの星への思いが伝わってきて興味ぶかく聞かせてもらいました。また、面白かったのは百武氏が彗星発見以来マスコミに振り回されていて、閉口していく彼としては、以前マスコミ関係に勤めていたが、自分自身はそれを避ける意味もあって転職し、鹿児島に住む事にしたそうですが、実際にはその逆になってしまったとの事。

だが、実の事を言うとこのトークショーを3氏には申し訳ないが全部は聞かずに途中抜けさせてもらった。と言うのは観測ゾーンの方では、影山氏をはじめ各天文団体の方々がそれぞれの望遠鏡の設営も終わり、例年にはない良い空の下で実にいい雰囲気でお互いの情報交換や一般参加者との交流が始まつていて、私はそちらの方に気が取られ参加してしまったのです。

清和高原天文台の台長も宮本さんから花草さんに変わり、水俣の天文グループも参加する様になつたし、今年は百武氏がフジノンの双眼鏡持参で参加してくれたりして、言葉では説明し辛いが、これまでに無く一般参加者や天文グループとの交流がスムースで思わず「今年のフェスタはいいね」と影山氏に言ってしまいました。ところが彼は間髪を入れずに「そうだ、八坂さん今年のフェスタのこと書いてみたら」ときた、一瞬躊躇ましたが私は自分自身意外にも同意してしまったのです。これは、この場の雰囲気で気分が高揚していたからでしょう、後悔後に立たずです。

ただ確かに、今年ほど星を通して人との触れ合いを快く感じたこと、そして、それほどスターフェスタが回を重ねるにつれて、お互いに練れてきていい味が出てきつつあるのを実感した事、10周年を迎える来年も今年に増して熟成し良い味をだす予感を抱いたのは私だけではなかつた事と思います。



B5のたわごと

朝夕が涼しくなってきました、如何お過ごしでしょうか。とは言っても・・・日中は、とーーーっても暑い。う~う~う~と頑張って仕事?をしております。熊本は今年も温度差が激しいです。日中の暑い中、汗いっぱいいかいで、水を飲まずに家に帰つてビールをキュッ。たまりませんな~。アル中と言われると困るので、ここいらで止めておきます。私事ですみませんが、私のホームページが恥ずかしながら完成しました。アドレスを下記にのせてますので、お暇だったら見て下さい。ちょこちょこ中身は書き換えております。☆天文台のホームページもまたまた一新!!是非見てね。☆

<http://www.interserve.or.jp/user/tommy/index.htm>

☆ 10月の天文現象&行事 ☆

- 3日(木) 水星が西方最大離角(17°54'9" 光度-0.5等)
- 4日(金) 下弦(21:04)
- 7日(月) 月の距離が最遠(404797km)
- 8日(火) リュウ座γ流星群(ジャコビニ流星群)が極大
- 12日(土) トーケアバウト(20:00~) 新月(23:14)
- 20日(日) 上弦(03:09)
- 21日(月) オリオン座γ流星群が極大
- 24日(木) 十三夜(栗名月)
- 26日(土) 満月(23:11)

お知らせ

9月27日が中秋の名月になります。ここらへんでひとつ、ゆっくり月を眺めて、虫の音に耳を傾けては見ませんか?みんなでゆっくりお月見をしませう!!

9月27日(金) 19:00~ 熊本県民天文台と古墳公園内にて。

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 1996年10月号 通巻259号

発行所 熊本県民天文台事務局 T 861-42

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

T E L 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作

天文台ホームページ http://denouken.kmt-technopolis.or.jp/KUMA/KCAO_TST.HTML